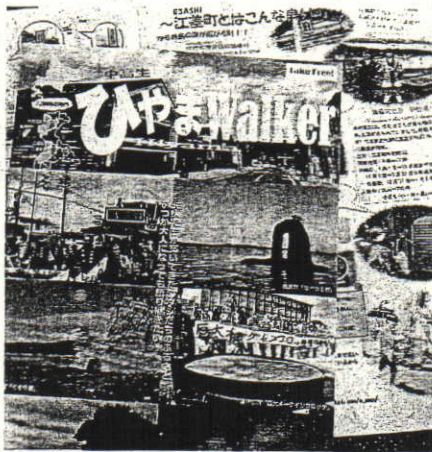


(第3種郵便物認可)

ひやまWalker

第2弾



7町の歴史など

高校生が取材・編集

檜山地方の高校生らによる手づくりの観光情報誌「ひやまWalker(ウォーカー)」の第2弾となる、今年度版が完成した。檜山地方には道内でも歴史ある町が多いため、2年目の今回は、檜山の7町の歴史や文化の紹介も盛り込んだ。

郷土に誇りを持って魅力を発信してほしいと、檜山教育局が管内の4高校に呼びかけて、昨年1月に初めて発行した。前年度版が好評だったため、今年度は印刷部数を一気に3倍の900部とした。

高校生らがつくった今年度版の「ひやまWalker」

参加校は江差、檜山北、上ノ国、奥尻の4校。社会科学授業や「ボランティア同好会」などの部活で主に2、3年生が取材や編集をした。各町の中学生もアンケート調査などに協力した。情報誌はA4判カラーの8ページで、表紙を除き、檜山の7町を1ページずつ紹介。いずれも重要文化財の「笹浪家」(上ノ国)や「中村家」(江差)など、江戸時代の北前船往来で栄え、歴史を伝える建造物を掲載した。勃発から150年となる箱館戦争に関連し、「開陽丸」

(江差)や「官軍上陸の地」(乙部)、「館城跡」(厚沢部)などの史跡や記念館も、写真とともに解説。各町の祭りや町民アンケートで選んだグルメ情報の紹介など盛りだくさんだ。

生徒たちは昨年5月に各町の取材に着手した。9月には各校の生徒らが江差町の檜山振興局に集まって初顔合わせをし、文化遺産を必ず掲載することを取り決めた。おおむね取材と編集の終わった12月にも、再び振興局で発表会に臨んだ。ひやまウォーカーは、檜山地方の各町をはじめ、函館市など道南地方の空港、観光案内所、道の駅などで無料で配布している。